

## アソカ講話081

### テーマ「天知る、地知る、我知る」

小さな人生論第2巻6章に次の言葉が載せられている。

「天知る、地知る、我知る」という言葉は、自分を戒めるという言葉でもあり、いかなる不遇の状況に会っても至誠を貫かんとするものを励ます言葉である」とある。

私達が子供のころ良く言われた言葉がある。自分に恥じない、天に恥じない行為をしなさい。誰が見ていなくても、天は見ている、そして他ならぬ自分が見ているだろう。人をごまかせても自分をごまかせないことを自分が一番知っているんだから。だから、自らを汚すような行為はすてはいけないよ・・・そう教えられた。

この言葉で思い出す事例がある。以前いた施設のグループホームに意図的に多く食事を作り、自宅に持ち帰る職員がいた。上記の話をしてあげると深く反省し、それ以降そのような行為は無くなった。罪の意識はなかったかもしれない。しかし、天が見ていて己に恥じぬ行為かといえ、恥じる行為である。人生はできる限り、己を汚すような生き方ではなく、爽やかに生きたいものである。この言葉には続きがある。それはやがて人の知るところとなるという言葉である。人生、潔く爽やかに生きたいものである。